

250mW アンテナ外付 UHF帯リーダ・ライタ

UPx-250-J2



- 無線局免許不要な特定小電力機器
- 中距離・複数枚読み取りに最適
- アンテナ外付ポート(1,2,4,8,16)
- ホストインターフェース (USB / RS-232C / LAN/無線LAN^{※1})

※1 : LAN(Ethernet(10/100BASE))と無線LANの共存不可

■ 製品仕様

上の写真は:UP4-250-J2(M/L)

| 項目 | 仕様 |
|----------------------------------|---|
| 機器種別 | CBファミリ |
| 対応タグ通信規格 | ISO18000-63/ EPC C1G2 |
| 周波数 | 916.8 ~ 923.2 MHz (18チャンネル) |
| RF送信出力 | 250mW (5~24dBm 調整可能) |
| アンテナ・RFケーブル | 外付け ポート数: 1/2/4/8/16 (コネクタ: SMA jack) 利得+3dBiまでの アートファイネックス指定品に限る (電波法準拠品) |
| 上位インターフェース | USB/RS-232C/LAN/無線LAN |
| 電源 | 付属ACアダプタ (DC+5V) |
| 外形寸法 / 質量 | UPS(2,4,8)-250-J2(M/L) : 130 × 130 × 30mm (突起物除く) / 495g(UP8-250-J2(M/L)) UP16-250-J2(M/L) : 180 × 130 × 40mm (突起物除く) / 755g |
| 対応OS (USBドライバ ^{※2}) | Microsoft® Windows® 10 (32bit版/64bit版) |
| 対応規格 | ARIB STD-T107,RoHS2 |
| 無線局種別 | 特定小電力 |
| 標準提供形態 | 受注生産 1式~ |

※2 その他の対応OSについては、FTDI社のホームページをご参照ください。

■ 製品一覧

[\[アンテナ例 その他のアンテナはお問合わせ下さい\]](#)

| 製品名 | アンテナポート数 | インターフェース | 開発支援キット 型番 |
|----------------------------------|----------|-----------------|---------------------|
| UPS-250-J2 (M/L) ^{※3} | 1 | USB,RS-232C,LAN | UPS-250-J2(M/L)-DK |
| UP2-250-J2 (M/L) ^{※3※4} | 2 | USB,RS-232C,LAN | UP2-250-J2(M/L)-DK |
| UP4-250-J2 (M/L) ^{※3} | 4 | USB,RS-232C,LAN | UP4-250-J2(M/L)-DK |
| UP8-250-J2 (M/L) ^{※3} | 8 | USB,RS-232C,LAN | UP8-250-J2(M/L)-DK |
| UP16-250-J2 (M/L) ^{※3} | 16 | USB,RS-232C,LAN | UP16-250-J2(M/L)-DK |

※3 無線LAN版の製品名は UPx-250-J2 (M/WL) になります。

※4 UP2のアンテナ切替制御方法(コマンド、関数)は、UP4、UP8、UP16と異なりますので、ご注意ください。



UP16-250-J2(M/L)

■ 開発者支援キット

開発者支援キット(DK)は、機能検証とソフトウェア開発のためのRFID開発支援キットです。本体のほかに、サンプルアプリケーション、Windows向け開発用ライブラリ(API)、コマンド仕様書、サンプルソースなどが同梱されております。サンプルアプリケーションは、UHFタグのエンコードが簡単に行え、メモリアクセスやリーダ・ライタの設定・機能が確認できます。また、検出したUHFタグのIDをキーボード入力に変換し、メモ帳などに簡単に記録できるキーボードシミュレートツールを用意しております。

お問合せ先

E-mail :

info@artfinex.co.jp



株式会社アートファイネックス
RFID東京事業部

〒101-0047 東京都千代田区内神田1丁目7の4 晃永ビル 5F

株式会社アートファイネックスは、ソーバル株式会社からRFID事業を2015年3月31日付にて譲受致しました。

仕様・外観・製品構成は、改良のため予告なく変更する場合があります。最新の情報につきましては、弊社のRFIDサービス・製品情報ウェブサイトでご確認ください。
本製品は電波を使用したRFID機器の読み取り・書き込み装置です。そのため使用する用途・場所によっては、医療機器に影響を与える恐れがあります。本製品を運用する際は、総務省、(社)日本自動認識システム協会及び関係団体の定める運用ガイドラインをご確認の上、適切にお取扱いください。「各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器へ及ぼす影響を防止するための指針」総務省(報道資料):平成27年8月

[Rev:105]